令和５年度第２回　感染症発生動向調査部会

令和５年５月１７日

月番：馬場　尚志

１　前月の感染症発生動向について（2023 年第 14 週～17 週・4 月）

＜全数把握対象疾患＞

- 結核は毎週報告あり（本年累計の対前年比 87.6%、2019 年比 63.9%）。発症者では、70 歳以上が 13 例中 10 例と約 3/4 を占めた（20 歳代 1 例、30 歳代 1 例）。
- レジオネラ症は 3 例報告あり（本年累計の対前年比 225.0%、2019 年比 112.5%）。
- 劇症型溶血性レンサ球菌感染症は 4 例報告あり（本年累計の対前年比 300.0%、2019 年比 180.0%）。
- 侵襲性インフルエンザ菌感染症は 3 例報告あり（本年累計の対前年比 500.0%、2019 年比 125.0%）。
- 侵襲性肺炎球菌感染症は 3 例報告あり、いずれも 75 歳以上の高齢者であり、本年報告された 13 例すべてが 75 歳以上（本年累計の対前年比 185.7%、2019 年比 54.2%）。
- 百日咳は 2 例報告あり、1 例は 50 歳代であった。
- 後天性免疫不全症候群は AIDS 1 例（女性）を含む計 2 例報告あり（本年累計の対前年比 400.0%、2019 年比 133.3%）。
- 梅毒は 17 例報告あり（本年累計の対前年比 165.4%、2019 年比 153.6%）。うち 16 例が早期顕症で（本年累計の対前年比 194.4%、2019 年比 184.2%）、男性 13 例、女性 3 例（20 歳代 2 例、50 歳代 1 例）であった。

＜定点把握対象疾患＞

- インフルエンザは、今シーズンの流行も小規模なものにとどまった。第 17 週には岐阜県全体として定点医療機関あたり報告数も 1 未満となった。
- RS ウイルス感染症は、飛騨圏域を中心に期間中 142 例報告あり（前月比 440.4%、対前年同期比 151.1%、対 2019 年同期比 228.0%）。
- 咽頭結膜熱は期間中 55 例報告あり（前月比 155.1%、対前年同期比 211.5%、対 2019 年同期比 130.3%）。
- A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、中濃圏域を中心に期間中 89 例報告あり（前月比 225.3%、対前年同期比 523.5%、対 2019 年同期比 41.8%）。
- 性感染症定点疾患は、性器クラミジア感染症は前年同期や 2019 年同期と比べ、やや増加しているが、他の疾患はほぼ同様の発生状況であった。

２　検討すべき課題

- 梅毒、HIV 感染症増加の背景要因、対策・啓発等について
- COVID-19 の定点調査の評価法・解釈等について（検査数、検査タイミングの変化を含め）

　　⇔インフルエンザや水痘では入院例をそれぞれ基幹定点や全数把握の対象としているが

３　情報提供すべき事項

・　梅毒、HIV 感染症の増加について
・　海外渡航・受入れ等に伴う感染症について

４　情報提供（月番委員専門分野から）

・　WHO の「COVID-19」（5 月 5 日）および「サル痘」（5 月 11 日）に対する緊急事態宣言の終了
・　*Candida auris* について（厚生労働省健康局結核感染症課からの 5 月 1 日付事務連絡）
・　令和 5 年度インフルエンザ HA ワクチン製造株の決定（4 月 27 日）
　－　昨年度のものから A（H1N1）のみ新たな株に変更された

５　その他（感染症対策推進課から）

・　感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律施行規則の一部改正等について
・　感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第 12 条第 1 項及び第 14 条第 2 項に基づく届出の基準等について（一部改正）
・　感染症発生動向調査事業実施要綱の一部改正について
・　令和５年度インフルエンザ HA ワクチン製造株の決定について（通知）
・　多剤耐性で重篤な感染症を引き起こす恐れのあるカンジダ・アウリス（Candida auris）について（情報提供及び依頼）
・　麻しんの国内伝播事例の増加に伴う注意喚起について（協力依頼）
・　サル痘に関する情報提供について

＜検討結果＞